

これからも皆様の声を大切に真剣に取り組んで参ります。

令和6年6月25日、仙台市議会第2回定例会が閉会しました。

今回の一般質問では「市営住宅の適正な管理と良好なコミュニティ形成について」質問をしました。

老朽化に伴う危険箇所の改善や、単身高齢者の方への見守り活動など、社会構造が変化する中、住宅への要望・課題も多岐にわたっています。またそれらを担う建設公社や民間会社へ居住者の方々から要望などの問い合わせが数多く寄せられています。仙台市として、居住者の方々の声を真摯に受け止め寄り添った対応をするよう、強く訴えました。

さらに、市役所本庁舎建替に要する経費と物価高騰などに伴う契約変更に対応する経費の追加が報告されました。昭和40年に建てられた現在の本庁舎は、老朽化が深刻で、改修か建替かなど様々検討が行われ、建替を行うことが決定しました。新庁舎の完成は令和9年11月、令和10年度に供用開始の予定です。来庁の際の駐車場利用などご不便をおかけしますが、ご理解の程宜しくをお願いします。

仙台市ではこの夏、区役所や図書館など計77カ所の市民利用施設を「せんだいクーリングシェルター」として指定をいたしました。クーリングシェルターとは、熱中症特別警戒アラートが発表された際、どなたでもご自由に利用できる、冷房設備を備えた施設です。今年度の運用期間は7月16日～10月31日までです。是非ご利用ください。社会も流動的な状況ですが、これからも皆さま方の「一人の声を大切に」に真剣に取り組んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

仙台市議会議員 佐々木まゆみ

宮城野区内クーリングシェルターの利用施設

出花体育館・元気フィールド仙台・生涯学習支援センター・高砂中央公園管理棟・
榴岡図書館・鶴ヶ谷市民センター・宮城野区文化センター・
宮城野区役所・宮城野図書館





居住者の声を代弁、 市営住宅の諸問題について改善を求める！

令和6年第2回定例会 一般質問 令和6年6月18日

HPVワクチン接種について

【佐々木まゆみ議員】子宮頸がんを予防するヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンを巡り、厚生労働省は5月22日の専門部会で、積極的勧奨の中止により接種機会を逃した女性の救済措置として進められている「キャッチアップ接種」の令和4年度の初回接種率が、全国で6.1%にとどまったと明らかにした。キャッチアップ接種は来年3月で終了するため、厚生労働省は自治体と連携して、この夏までに接種の呼びかけを強化する方針だ。仙台市としての取組はどうか。

【健康福祉局長】令和4年度に、この接種を開始以降、本市では、令和4年度及び5年度の各年度に対象となる皆様に、個別の接種勧奨通知を送付するとともに、各学校へのポスター掲示や市政だより等により周知を図り、本年3月末時点で6,247人が、キャッチアップ接種を受けている。

このワクチンは、3回の接種に6か月を要し、これを今年度末までに完了する必要があることから、今年度の接種勧奨通知については、夏休みに1回目の接種をしていただけるよう通知を発送する予定だ。夏休みの期間に向け、例えば仙台市公式LINEによるプッシュ通知や様々な媒体も活用し、重点的な周知啓発を更に図っていく。

市営住宅の適正な管理と良好なコミュニティの形成について

【佐々木まゆみ議員】様々な課題を抱える市営住宅における本市の現状をどのように認識し、今後どのように対応していけるのか、ご所見を伺う。

【都市長】本市では、これまで住宅需要の増加に伴い市営住宅の整備を進めるとともに、入居者のニーズや社会情勢の変化などを踏まえながら、ハード・ソフト両面における居住者の生活環境の向上に取り組んできた。

一方近年では、高齢化の進行に伴う単身高齢者世帯の増加やコミュニティの機能の低下といった新たな課題が顕在化している。

今後は、子育て世帯の特定枠募集によるコミュニティの担い手確保や福祉部門などとの緊密な連携による高齢者世帯の見守りなどの取り組みが更に重要になってくるほか、老朽化して、それに伴う建て替えに併せたバリアフリー化、また、単身用住戸の更なる確保など、ニーズに応じた住宅環境の整備も必要と考えている。

住宅に困窮する方々の居住の安定化を図り、住宅セーフティーネットとしての重要な役割を果たすため、引き続き、市営住宅を取り巻く諸課題に的確に対応し、安全・安心な住環境づくりを進めてまいりたい。

公社等職員の対応改善について

【佐々木まゆみ議員】市営住宅の募集から入居審査、決定、各種申請手続の受付など、入居に係る一連の業務は本市の外郭団体である仙台市建設公社が一体的に行っている。

また、市営住宅の管理業務のうち、緊急・小口修繕や保守管理、駐車場管理といった一部の業務は民間の指定管理者に委託をしている。

それら職員の対応については、入居者や管理組合から丁寧で迅速であるなど評価する声がある一方、残念ながら住民の方から苦情の声も届いている。

入居されている方への対応として、現場を預かる建設公社は、入居者との潤滑油としての役割を担っており、職員の対応については、特に高齢者や障がいを持つ住民の方にはさらに寄り添った対応を心がけてほしいと思うがどうか。

【都市整備局長】入居者からの相談対応にあたっては、個々の事情に配慮し、寄り添った対応を図りながら信頼関係を築いていくことが重要であると考えている。建設公社においても、丁寧な対応に努めているもの

と認識はしているが、住民ニーズが多様化・複雑化していることもあり、指定管理者として担うべき役割について研修を行うなど、職員の更なる資質向上に努めるよう求めてまいりたい。

入居資格要件の緩和を

【佐々木まゆみ議員】近年のライフスタイルや価値観の変化により、今後さらに若年や中年の単身者が増加すると思われる。募集しても応募がないような住宅については、60歳未満の単身者にも入居を認めることなど、入居者資格要件の緩和を検討すべきと考えるがどうか。

東京都では親族以外の単身高齢者同士が同居できる制度として、「高齢者等ふれあい同居募集」を新しく始めた。世帯向けについては募集しても応募がなかった部屋があったということで部屋の有効活用にもなり、単身で住宅にお困りの方が少しでも入居しやすくなる。仙台市でも取り入れてはどうか。

【都市整備局長】単身者世帯の入居については、60歳以上であることや障害をお持ちであることなどを要件としており、エレベーター等のバリアフリー設備が整った利便性の高い住戸に応募が集中する傾向にある。一方、郊外のエレベーター等がない団地においては、応募のない住戸が見受けられる。空き住戸の効果的な活用方法について、単身者世帯の年齢要件の取り扱いを含め、他都市の状況を調査するなど、研究してまいりたい。

死亡退去時の原状回復について

【佐々木まゆみ議員】単身高齢者の方が多くて、死亡後の住宅の退去手続や家財の処分、原状回復費用の負担が大変だとの声を聞く。死亡退去された場合のほとんどが、親族などの相続人で家財道具の整理や畳・ふすまの交換など、原状回復を行っている。民間の住宅では、残置物処理などに活用できる保険の加入が入居の要件になっている場合がある。仙台市でも活用すべきと思うがどうか。

【都市整備局長】畳やふすまの交換等の修繕費用については、原則として本市が負担しており、入居者にご負担いただく場合であっても、お預かりしている敷金の範囲内で概ね賄われている。また、家財などの残置物処理については、原則親族等に対応をお願いしているが、対応困難な場合は、権利放棄書を提出していただくことで、本市が対応を行っている。

残置物処理にかかる保険については、昨今、民間賃貸住宅において広がりつつあることから、入居者への情報提供について検討してまいりたい。

生活保護での残置物処理の保険費用について

【佐々木まゆみ議員】市営住宅に入居が決まった際、保険制度の案内等も必要と考えるがどうか。併せて、生活保護の住宅扶助等で、市営住宅において民間のような残置物処理の保険費用の支給は可能なのか伺う。

【健康福祉局長】生活保護の住宅扶助は、一定額の家賃等のほか、入居の際の火災保険料、保証料について必要やむを得ない場合、支給の対象とすることができる。住宅扶助の支給対象となる保険料は、火災保険料に限定されており、残置物処理の保険料は対象外となっている。

空き室の福祉的支援の活用について

【佐々木まゆみ議員】川崎市では、市営住宅の空室の目的外使用許可による福祉的な取り組みを行っている。令和5年度実績として、ホームレス支援事業として1住宅8戸、知的障害者共同生活事業として3住宅9戸にて使用を許可している。これらの支援事業に対する住宅使用料は近傍同種家賃の50%減免としており、使用許可の期間は1年間です。

本市においては現在、鶴ヶ谷第二市営住宅で一団体利用されているグループホームがあるが、更に福祉的な支援に活用すべきと考えるがどうか。

【都市整備局長】本市では、福祉団体等の活用に関する国の通知を受け、平成10年度より、福祉団体等から利用希望があった場合には、市営住宅の空き状況等も踏まえながら、社会福祉事業等での活用を図っており、現在鶴ヶ谷第二市営住宅においてグループホームとして1団体に2部屋を利用いただいている。引き続き福祉部門とも連携も図りながら、活用を図ってまいりたい。

その他「気象防災アドバイザーなど職員の相互派遣の取り組みについて」「男性へのHPVワクチン接種について」等質問した。



終戦記念日街頭演説(8月15日)

帯状疱疹の特徴

帯状疱疹は、多くの人々が一生のうちに一度はかかる病気です。水疱が現れる場所によって、顔面・上半身・下半身に現れる場合があります。また、高齢者や免疫力が低下している人では、重症化するリスクがあります。

帯状疱疹ワクチン

帯状疱疹ワクチンは、帯状疱疹の発症リスクを約90%減らす効果があります。また、重症化するリスクも減らすことができます。

帯状疱疹ワクチン

中高年に多く、皮膚に「水ぶくれ」と同じように、痛みやかゆみを伴う発疹が現れるのが特徴です。ワクチン接種により、発症リスクを減らすことができます。

公費助成の定期接種へ

対象年齢など
議論を進める

伊佐進一 衆議議員
公明、自治体独自の支援を
広げて、国の動きを後押し

帯状疱疹ワクチン進む(7月1日)
いよいよ今年度、公費助成の定期接種へ。多くの方々から必要性の声を頂き、市議会でも訴えてまいりました。



夏祭り(7月28日)
この夏もたくさんの出会いがありました。



令和6年度仙台市水防訓練(5月23日)
台風等による河川氾濫等を想定した実践的な訓練(七北田川岩切緑地)に参加。



高砂中央公園内にて開催された、ふるさとの杜再生プロジェクト植樹祭に参加(6月1日)



宮城野西支部支部会の開催(6月12日)



小鶴市宮住宅北西側の駐車場入口に手すり設置



台湾地震被災者救援募金活動(5月3日)



岐阜市立草洞中学校視察(7月26日)
学びの多様化学校として令和3年4月に開校。現在46名が在籍しており、自分の決めた場所で、自分の決めた方法で、自分の学びたいことを学んでおり、校舎の玄関には「ありのままの君を受け入れる新たな形」の大きな文字が出迎えてくれました。

佐々木まゆみプロフィール

昭和39年7月仙台市生まれ。平成23年仙台市議会議員初当選(宮城野区選挙区)。現在4期目。
【仙台市議会】経済環境委員会委員。文化芸術・スポーツ振興調査特別委員会委員。

日々の活動は
フェイスブックを御覧ください。



Facebook